

2026 年 10 月 30 日

合同会社 MUJI ENERGY

**太陽光発電所における苔栽培の実証実験を開始
～景観や環境負荷に配慮した発電所を目指す取り組み～**

合同会社 MUJI ENERGY（以下「当社」）は、この度、苔の栽培・販売会社である合同会社 moss&CO（以下「moss&CO」）とともに当社が宮城県内で運営する小規模な太陽光発電所（以下「発電所」）3 か所において苔栽培の実証実験を開始しました。

当社は、再生可能エネルギーの創出とともに、遊休地を活用し地域の自然環境・住環境に配慮した地域共生型の発電所運営を目指しています。本実証実験では、3 か所の発電所敷地内で苔栽培を行い、環境負荷や周辺の景観への影響を含め、発電所の用地活用の新たな選択肢となり得るかを検証します。実証実験は来春頃までを第 1 フェーズとして予定しており、その結果を踏まえて第 2 フェーズ以降の計画を立案する予定です。

背景と目的

当社は、発電所を単に電力を生み出すだけの場所としてではなく、地域の自然環境と共生する場所として活用することを目指しています。太陽光発電所では一般的に、敷地内での雑草が周囲の景観や発電設備に悪影響を与えることを防ぐため、定期的に手作業で雑草の除去を行う必要があります。また、雑草の除去作業の負荷を軽減するために発電所内に防草シートを敷設することもあります。

当社は、この雑草をめぐる課題の解決方法として、太陽光パネルの下という日陰でも育ち、背が高くなって発電設備を覆い発電設備に影響を与える懸念がなく、ビルの緑化や鑑賞等さまざまな用途に活用でき CO2 の吸着効果も期待できる苔に着目し、発電所内での栽培実証を行います。

苔の栽培にあたっては、廃棄予定であった使用済みのコーヒー豆輸送用の麻袋を苔の種を蒔いて育てるための土台として発電所内の地面に敷くことで、資源の循環も目指します。

実証実験の概要

実証では、太陽光パネルの下の地面に栽培の土台として、コーヒー豆の保管や輸送等で使用された廃棄予定の麻袋を敷いて固定し、その上に苔の種を蒔き栽培します。性質の異なる数種類の苔を同時に栽培することでそれぞれの培地への定着性や生育状況を観察し、発電所での栽培に適した苔の種類を特定するとともに、発電所という環境下での苔栽培のノウハウを蓄積します。

また、麻袋を苔が覆うことによりそこでの雑草の生育が抑制され、発電所の景観にもよい影響を与えるか、雑草の除去作業の軽減につながるか、についても検証します。

さらに麻袋が時間の経過とともに自然に分解され、土に還るのに要する時間や敷設場所の土壌への影響も検証します。

なお、同じ発電所内で並行して販売用に一般的な苔栽培用のシートを土台として敷いて苔栽培を行います。そこで生育した苔は、2027 年春頃にシートを地面からはがしてシートごと収穫し、加工して、企業の緑化や鑑賞用の商品等として販売予定です。

今後について

当社は、本実証実験を通じて得られたデータを活かし、遊休地を活用した発電所での苔栽培の事業化の可能性を検証します。

当社は今後も、地域の遊休地をより有効に活用した地域共生型の再生可能エネルギー創出の実現を目指して参ります。

以上

（参考）実証実験中の発電所



■ 合同会社 moss&CO については同社の HP をご覧ください。

HP:<https://mossand.co/>